

春の叙勲、褒章

平成二十年春の叙勲、褒章受章者が発表されました。その道一筋に打ち込んだ、長年にわたる努力や功績が認められ、本市から六人が受章しました。

旭日小綬章



小笠原隆男さん
(土淵町、75歳)

一九七九年に遠野市議会議員に当選以来、二〇〇六年まで通算八期、二十七年にわたり在職。この間、旧遠野市議会で議長などを歴任し、市政の伸張と市民福祉の向上のために情熱を注ぎました。

旭日単光章



菊池章道さん
(上郷町、79歳)

選挙管理事務(元遠野市選管委員長)

委員として一九六四年から六六年まで一期、八三年から連続四期務め、通算二十二年間にわたり公平な選挙に尽力。啓発運動を積極的に実施するなど、二十代の投票率向上にも大きく貢献しました。

旭日双光章



時田一雄さん
(新町、80歳)

保健衛生(元遠野市医師会長)

一九六三年に時田整形外科医院を開業以来、八六年から九六年まで遠野市医師会長、八六年から十年間にわたり岩手県医師会理事を務めるなど、地域保健医療の充実と進展に大きく貢献しました。

瑞宝双光章



松田隆さん
(六日町、74歳)

調停委員(元調停委員)

一九八二年から二十四年間にわたり盛岡地裁調停委員を務め、調停事件の解決に大きな成果を上げました。また、後輩調停委員の指導に尽力し、調停制度の普及発展に貢献しました。

瑞宝単光章



沼田修一さん
(松崎町、81歳)

消防(元遠野市消防団分团长)

一九五一年に松崎町警防団入団。以来、市消防団部長、副分团长を経て、七十六年から分团长に就任。持ち前の強い責任感と統率力により、分団運営や消防技術の向上に多大な貢献をしました。

瑞宝単光章



井手正博さん
(松崎町、58歳)

専門工事業務(遠野新高電気取締役)

一九七四年に遠野新高電気に入社以来、三十四年間にわたり一貫して電気設備工事に従事。長年培った豊かな経験と優れた技術で業界の発展に貢献したほか、後進の育成にも尽力しました。

黄綬褒章



菊池光哉さん
(上郷町、77歳)

業務精励(農業)

本市にホップが導入された一九六三年に生産を開始。以来、大規模生産者として生産農家の先頭に立ってきたほか、遠野ホップ農協の組合理事を務めるなど、本市のホップ生産振興に貢献しました。

6月8日(日)、早池峰山山開き 8月3日までの土・日、祝日 車両交通規制を実施します

早池峰山は、貴重な高山植物が残る山として、多くの登山者に親しまれています。自動車の排ガスの影響や、路肩駐車による植物の踏みつけなどが心配されることから、交通規制を実施します。皆さんのご協力をお願いします。

規制期間・時間

六月八日(日)から八月三日(日)までの土・日曜、祝日。午前五時から午後一時まで(大型・特定中型車両は午後五時まで)。

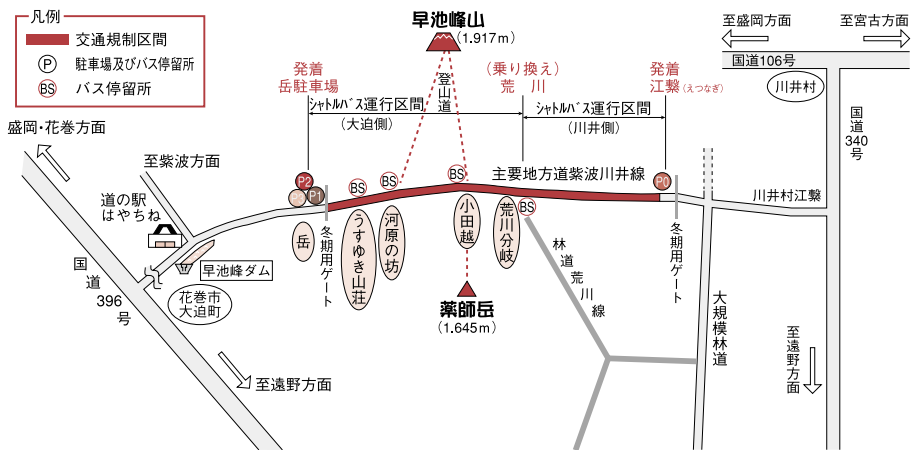
規制区間

主要地方道紫波川井線の花巻市大迫町内川目岳地内から、川井村江繋地内までの約十六キロ。

なお、林道荒川線と規制道路との合流点には駐車場がありません。遠野側から自動車で乗り入れる人は、大規模林道を利用して江繋の駐車場に駐車し、シャトルバスをご利用ください。

その他

①貸し切りバスや観光バスも規制の対象となりますので、シャトルバスを利用してください。シャトルバスを団体で利用する場合は、一週間前に予約が必要です。(予約先 岩手県交通 0



②携帯トイレの利用を推奨しています。河原の坊総合休憩所、小田越監視員詰所で取り扱っています。

早池峰登山シャトルバス運行時刻表

区間	停留所	始発時刻	最終時刻	区間	停留所	始発時刻	最終時刻
岳駐車場 ↓ 荒川	岳駐車場	5:30	15:30	荒川 ↓ 岳駐車場	荒川	6:05	16:15
	河原の坊	5:48	15:48		小田越	6:12	16:22
	小田越	5:54	15:54		河原の坊	6:18	16:28
江繋 ↓ 荒川	荒川	6:00	16:00	岳駐車場	岳駐車場	6:35	16:45
	江繋	6:15	15:15		荒川	6:35	15:35
	荒川	6:30	15:30	江繋	江繋	6:50	15:50

■上記のほか、30分～1時間間隔で運行
■料金は、区間により片道300円～600円(小学生以下は半額)



関係者によるテープカットで山開きを祝う(昨年の山開きから)

市長ひとこと

こざっぱり

「里山美林フェスタ」と題した今年の育樹祭は、二十年前に植樹した梨の木平市有林の除間伐や枝払いを行いました。馬搬実演や植樹、遠野第二ダム工事の野外講座もあり、盛りだくさんの内容。好天の中、子どもたちからベテランの人まで約二百人が心地よい汗を流しました。「森の名手・名人」の見方芳勝さんは、愛馬と一体となった迫力ある馬搬を披露。懐かしい光景でしたが、森林愛護少年団の子どもたちだけでなく、初めて見たという大人も多かったことに時代の流れを感じました。一時間ほどの作業で、「もさもさ」としていた杉林は見る見る日差しが入り、床屋をしたように「こざっぱり」とした明るい森に。子供のころ庭先で「痛くないから」と、父親にバリカンで頭を押さえられながら床屋したこと思い出しました。美しい里山や、森に守られる里川は遠野の宝です。梨の木平の杉林からは「ああ、こざっぱりした」という声がかんたえてくるようでした。(本田敏秋)